

草津市立矢倉小学校通信 平成 29 年 7 月 3 日 NO.7



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## ことばの力

前日の雨でずいぶん校庭の草も抜きやすくなったに違いないと、校庭の気になっていた一区域に出向き、草取りに精を出していたときのことである。「こーちょーせんせーい、なにしてんのー？」と、子どもたちの声がした。ふりむくと、ずいぶん向こうから、プールに向かう水着姿の子どもたちがいた。すかさず「草取り、してんねーん」と、手を大きく振り返した。すると今度は、「ありがとう、ごさいまーす！」の聲が届けられた。よく見ると、気を付けをしてお礼をしたり、ジャンプしながら手を振ったりしているのである。私は思わず「がんばるねー」と大きな声を張り上げて返事をし、ふたたび掘り起こそうとしていた草に向き合った。スコップを握る手にも自然と力が入る。実を言えば、その直前まで、雨上がりの蒸し暑さと、思っていた以上の草の量で、作業を途中で放り出そうとしていたのである。こうして子どもたちの心地よいお礼のことばに、もうあとひとふんばりと、気を取り直して励むことができた。その後、しばらくしてから一輪車で草を運んでいると、またまた野外観察をするため、校舎横の畑に向かって歩む別の学年の子どもたちに出くわした。今度は、先頭を歩く担任から「ありがとうございます」のねぎらいと、直後に「みんなもありがとうございますと言うんだよ」の促しで、後ろについて歩く子どもたちは口々に「ありがとうございます」「ごくろうさまです」などと声をかけてきてくれた。その日は、どうかすると後ろ向きになりがちな私を、子どもたちや職員が、タイミングよく励ましてくれた一日だった。

毎日のなんでもない場面のひとこと、ふたことのやりとりが、互いの結びつきを確かめたり、深くしたりするものである。相手を支え、励ますのも、ことばの力に負うことが多い。ことばの力を改めて見つめ直し、なんとも幸せなことだと感謝した出来事だった。

校長 大林 道範